

## 「レジリエント・シティ」の実現に向けた 焦点を当てて取り組む先行分野（ディスカバリーエリア）（案）について

### 「ディスカバリーエリア」とは

100RCのプログラムにおいて、レジリエンス戦略\*の柱として設定することとされている、課題や政策等の「焦点を当てて取り組む先行分野」のことです。

「レジリエンス」の概念は市政のあらゆる分野に及ぶものですが、効果的に都市のレジリエンスを高めていくための手法として、分野を絞って先行的に取り組み、その他の分野へ波及させていく際のモデルとしていくものです。設定に当たっては市民等のショックとストレスに関する認識等を踏まえ、市の実情等も加味しつつ総合的に判断することとされています。

### 1 本市案について

「レジリエンス」とは、自然災害などの外的ショック、人口減少や地域コミュニティの希薄化のように忍び寄る内的ストレスにしなやかに対応し、50年後、100年後も魅力ある都市として存続していくための重要な概念です。これを京都市において実現していくため、

- ① 深刻な課題である人口減少・少子高齢化や財政難の中でも市民が心豊かに暮らしていけるよう、本市の強みを更に高め、弱みを克服していく。
- ② そのために政策の融合を図る。

これらの観点に留意しつつ、各種アンケートやアジェンダセッティング・ワークショップ、市民生活実感調査等における市民等のショック・ストレスに関する認識、御意見（別紙）、これまで伺った有識者等の御意見、そしてCROによるアドバイスを踏まえて総合的に判断し、次ページに掲げる6つの分野（案）を選定しました。

### 2 今後の取組について

ディスカバリーエリア設定後は、それぞれのエリアごとに、関係局区等の職員と外部の関係者からなるワーキンググループ（以下「WG」という。）を編成します。

WGごとに、上記①②の観点から現在の政策等について再点検、分析等を行い、「不足している」、あるいは「欠けている」視点を洗い出し、それらを補うために必要な取組等（京都市レジリエンス戦略に盛り込む内容）を整理していきます。

なお、WGの詳細等については、後日改めて関係局区等と具体的な調整をさせていただく予定です。

### ※ レジリエンス戦略について

レジリエント・シティを構築していくための取組指針として策定する推進計画

来年度早期を目途に策定予定の「京都市レジリエンス戦略」は、レジリエントなまちづくりの市民ぐるみでの実践を通じて、市民のライフスタイルの変革も視野に入るとともに、市民、事業者、地域団体等の取組を本市が支え続けていけるよう、「行政の仕組みの見直し」を図るための指針としても位置付けていきます。

① 災害に強いまち

(包含する分野) 将来にわたり災害に強いまちを目指す「防災・減災対策」, 「インフラ老朽化対策」の推進

② 支え合い, 助け合うまち

(包含する分野) 町衆文化を受け継ぐ「地域コミュニティの活性化」の推進

③ 豊かに暮らせるまち

(包含する分野) 京都の精神文化を将来にわたり引き継ぐ「文化・芸術の発展」と都市の活力を高める「経済・産業の発展」との融合

④ 快適に住めるまち

(包含する分野) 京都らしさの源泉である「景観・街並みの保全」や「空き家増加の抑制・活用」

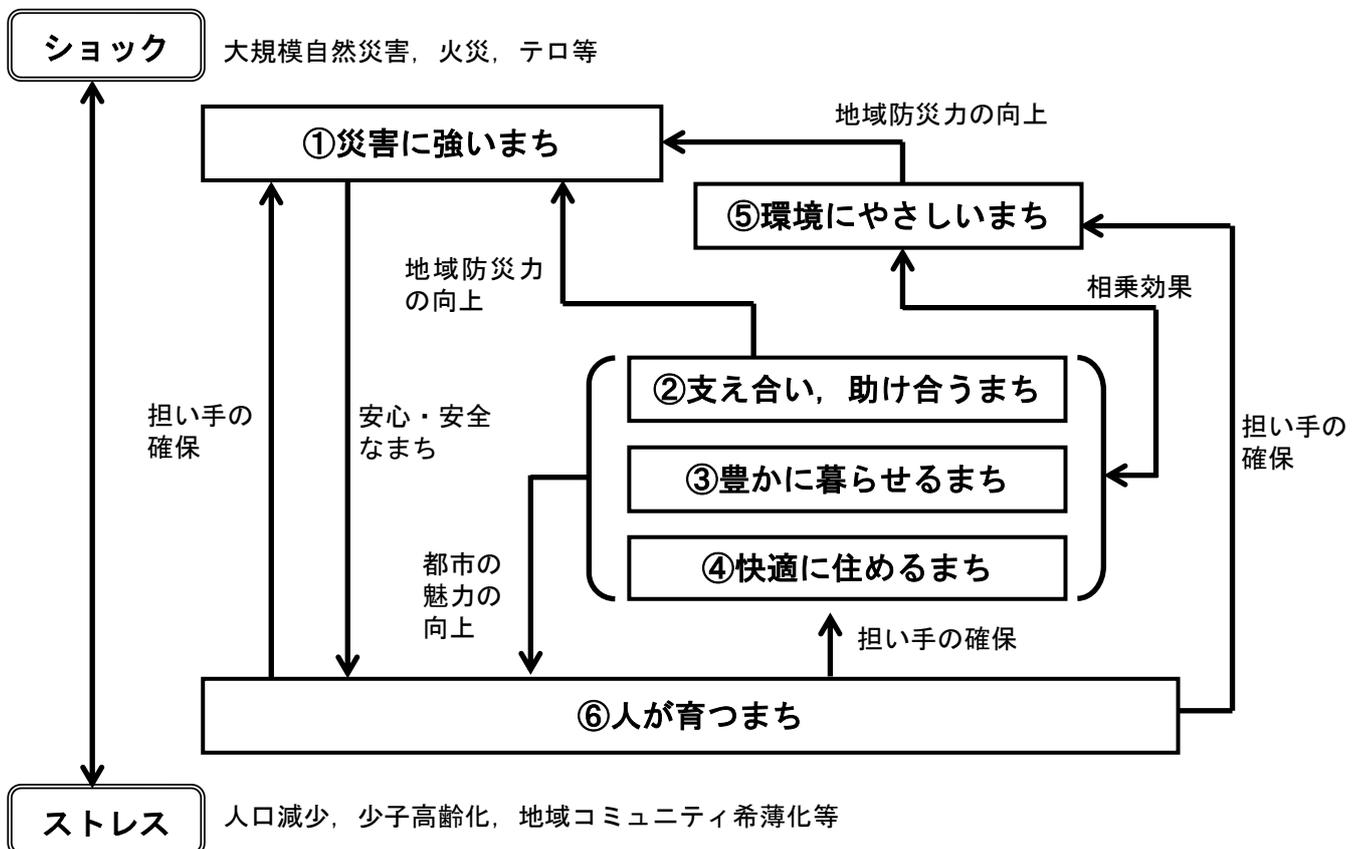
⑤ 環境にやさしいまち

(包含する分野) 京都議定書誕生の地として, 気候変動による影響を最小化又は回避するための地域発の「地球温暖化対策」の推進

⑥ 人が育つまち

(包含する分野) ①~⑤すべての基礎となる, 現在そして将来の担い手を育てるための「人口減少・少子高齢化対策」

(ディスカバリーエリアの相関関係)



(参考) 主な有識者等の意見

- ・ レジリエント・シティの取組は、次の京都市基本構想につなげるための理念をつくる取組ではないか。  
(京都市立芸術大学 鷲田清一学長)
- ・ レジリエンスの考え方は、文化や産業など個々の分野それぞれが相乗効果を発揮できるような大きな目標と位置付けるとよい。(京都大学経営管理大学院 原良憲教授)
- ・ レジリエンスの向上のためには、各分野の施策の隙間を埋める取組が重要である。  
(京都大学学際融合教育研究推進センター 清水美香特定准教授)
- ・ レジリエント・シティとクリエイティブシティ(創造都市)の考え方は近く、融合できるのではないか。(文化庁地域文化創生本部総括 佐々木雅幸同志社大学特別客員教授)
- ・ 「レジリエンス」という言葉は、広がりのある言葉であり、防災に限定する必要はない。人口減少や少子高齢化等幅広く捉えることは素晴らしい。人口減少、少子化対策には、子ども・若者への支援の充実・実施が必要である。  
(京都大学こころの未来研究センター 広井良典教授)
- ・ 防災はレジリエンスの主要概念ではない。京都でのレジリエンスを世界に発信するなら、文化の維持継承をメインにすべき。そのことが、日本文化の継承そのものに繋がる。人口減少や少子化などは、京都に限った話でないので、面白味がない。  
(京都大学大学院工学研究科 藤井聡教授)
- ・ 多様性がある都市は強く、発展する。多様性を生み出す強さを持つべき。レジリエント・シティの取組は、京都の持続可能な要件を考えるとという点で、経済同友会の取組と趣旨が近い部分がある。  
(京都経済同友会 鈴木順也代表幹事)
- ・ 人口が増えず、経済も低成長だった時代は、江戸時代にも経験しているが、その時代の人々は「知恵」で乗り切ってきた。現在も、前提を疑い、考え直すような発想の柔軟さが必要ではないか。  
(臨濟宗大本山妙心寺退蔵院 松山大耕副住職)
- ・ レジリエンスの考え方は万国共通であり、分ち合える概念だと思う。京都文化芸術都市創生審議会においても取り入れていく必要があると感じる。  
(華道池坊家 池坊専好次期家元)